

	1. 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2. 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3. 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所				
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。			
宇山委員	×	美術館来館者のうち、日ノ丸自動車の三朝線(倉吉駅～温泉病院前 上り、下り)を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日10本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり17分～23分である。既存の駐車場(三朝町総合スポーツセンター、三徳川緑地公園)は三徳川の対岸にあり、少し利用しにくいし、特にスポーツセンター利用時には利用できないし、河川敷の駐車場も大雨洪水が予想されときには敬遠される。	—	×	隣接地に「みさき子ども園」があり、交通安全面で懸念がある。	—	—		
船越委員	×	山の中という感あり。特に積雪時に接近が困難になる方角があるのでは? 又候補地に隣接してみさき子ども園があり、交通量が増えた時の安全確保にも懸念がある。既存の駐車場を数か所示してあるが、いずれも400～1,000mと隣接とは言えない距離がある。	—	—	—	—	—		
佐分利委員	×	1時間に3本の倉吉とのバスがあるが、バス停が橋を渡り250m先である。バスを降りてからの歩道の整備が必要。障がい者や高齢者が日常的に訪れる場所になりにくい。子ども園、老人施設に隣接しており、橋を渡ってからの車道が共用になることから安全、保育環境の面から不安がある。	△	△	今ある文化施設を取り壊しての建設は疑問が残る。これらの施設と、近隣の機関がどのように連携していたかを考えると、さらに疑問である。県立美術館が、孤立しそうに思える。	△	△	橋を渡り子ども園を通ってくる道は、車で来る人や、バスから降りて歩いてくる人を想定すると、手狭で、ユニバーサルな施設や環境を整えにくい。高低差のある敷地で、整備しにくい。	
川井委員	△	三朝温泉地内にあり、徒歩5分程度のところにバス停がある。自動車、バスでの来訪が必要。	△	△	文化施設・教育機関が付近になく、連携は困難ではないが。	×	×	地域の活性化につながるような周辺施設が乏しいのではないかと。現在、候補地内に建っている建物の取扱い等の問題が残っている。	
中島委員	×	JR倉吉駅から遠すぎる。主要道路9号線が遠すぎる。	△	△	三朝温泉を訪れる観光客の誘導の可否が問題。付近のバイオリン美術館(旧三朝町立美術館)の取組み、状況からすると、誘導できる可能性もあるが、立地や美術館の規模等からすると、バイオリン美術館と同様に論じられるかは疑問。	△	△	三朝温泉があるが、離れすぎである。	
野田委員	×	—	△	△	温泉地の客と美術館の来場者の間には関連はほとんどない(箱根のような首都圏からくる大規模温泉地とは異なる)	×	×	温泉街から少し離れている。	
谷本委員	—	—	—	—	ほとんど見受けられない	×	×	想定しづらい	
前田委員	×	交通アクセスが不便。	△	×	三朝温泉という大きな観光地があるものの、美術館との相乗効果が発揮できる有力な施設が見当たらず、地域づくりへの寄与は限定的と考えられる。また、子ども園に隣接するため、交通安全の懸念もある。	—	—	三朝温泉客を誘導可能である立地条件だが、美術館との連携は限定的。	
里見委員	×	・最寄りのJR駅が倉吉駅で、距離が8km ・倉吉駅からは路線バスがあるが、1時間に3本程度	△	△	近くに三朝バイオリン美術館があるが、入館者1万人で、連携としては弱い。	×	×	観光施設ではあるが、文化施設の立地に向いているとは言えない。	
牧野委員	×	鉄道駅から遠い。バス便は良好とは言えない。	△	△	三朝温泉、日本文化遺産三徳山は知名度もあり、可能性はある	△	△	三朝温泉、三朝温泉街に隣接。ただし、美術館への誘客数増大への貢献度が高いとは言えない。他の諸施設は他の候補地と比べて特筆する価値無し。	
香川委員	×	倉吉駅からバス(直通)で15分程度だが本数は少ない。車でのアクセスが中心になるが、現状の駐車場のキャパは少ない。	△	△	三朝温泉街に隣接。ただし、美術館への誘客数増大への貢献度が高いとは言えない。他の諸施設は他の候補地と比べて連携の可能性が低い。	×	×	町、地域自体に、将来に向けた新規投資可能性が見受けられない。美術館が新規立地することによる地域の変化が想定できない。	
前野委員	△	倉吉駅からバス(1時間に3本)	△	△	温泉街との連携。現状の施設にリニューアル・オープン(H26)して間が無い。	△	△	温泉街との連携。温泉も引ける。隣接水路で虫が見られる。	
									広さは十分。現状の段差(3段)を活かした造りをどうするか。
									三朝町有地20697m <sup>2</sup> 、背後地が急斜面であるため、災害防衛施設が不可欠である。
									地盤は比較的堅固と思われる。既往災害は無いが、裏山の急傾斜は要評価。下流での斜面崩壊(花崗岩)による溢水の可能性がゼロではない。
									浸水想定はないが、背後地がかなり急斜面で予定地が土砂災害危険区域。

誘致に対する取り組みはなしと推薦欄に記載してある事も気になる。

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。

	1 様々な人が気楽に訪れることのできる場所		2 地域づくり、まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所								
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。							
宇山委員	×	美術館来館者のうち、日本交通の橋津線、(倉吉駅～衛生環境研究所前 上り、下り)を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日3～4本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり1時間10分～3時間23分程度となり利用しづらい。バス停下車 徒歩3分はOK、駐車場確保OK	△	物販・娯楽施設・商業施設は町内幹線道路沿いにあるが、どこでもあるような日常景色であり集客は期待できない。観光施設については移動の多くは車であるが、一定の誘導は可能。(風光明媚)	-	-	-	-					
船越委員	△	公共交通によるアクセスはバスの便数が少ないためやや不便。観光バス・自家用車での来館は山陰道のハワイICから近いので便利・容易と言える。但、駐車場が隣接した施設と共用で3か所に分散しており、合計1,00台分では不足と思われ増設の要あり。	-	-	-	-	-	-					
佐分利委員	×	倉吉-羽合-泊間のバスがある(1時間1本)。倉吉駅からタクシーで14分、松崎駅から11分離れている。はわいインターから車で6分と、時間がかかる。日常的に県民が訪れるには不便である。東郷へ抜ける道からの眺望は抜群で、泊インターからのアプローチは価値がある。	△	東郷湖周辺の、ウォーキングゾーンの拠点がある。ハワイ夢広場、ローラースケート場、テニスコートと、運動施設が整備されている。野球場や、体育館を壊すより、スポーツ施設を充実して、羽合温泉とタイアップしたほうが良いと思われる。	△	東郷湖周辺の、ウォーキングゾーンの拠点がある。ハワイ夢広場、ローラースケート場、テニスコートと、運動施設が整備されている。野球場や、体育館を壊すより、スポーツ施設を充実して、羽合温泉とタイアップしたほうが良いと思われる。	×	この地まで、家から歩いて来ることのできる人は何人いるだろうか。駐車場、バス停からの来館になる。敷地は広いので、ユニバーサルな施設は可能だが、アクセスに問題が大きい。	△				
川井委員	×	バス停までの距離が遠い。自動車での来訪以外に手段がない。	×	周辺に見るべき観光施設がなく、誘導は困難。	×	周辺に見るべき施設がない	×	地域づくりにつながる要素に乏しい。	△	野球場の取り壊し費が必要か?	-		
中島委員	△	JR倉吉駅からは近いが、東部・西部からは1時間ほどで車がつきまです。バスは1時間に1本です。9号線や山陰道から車で7～8分。	○	はわい温泉・東郷温泉があり、又、中国庭園燕趙園もあり、また近くに海水浴場が多くあります。	○	ハワイアロハホール・ハワイ風土記館などがあります。鳥取短期大学・鳥取看護大学に近い。ハワイ夢広場スポーツ、娯楽施設が整備されている。	△	すぐ近くに商店街がないのが少し。	○	面積19,000㎡あり、東郷池に面している。周辺は東郷湖羽合臨海公園もあります。	○		
野田委員	△	交通アクセス悪い	×		×	特になし	×	不利	△		△		
谷本委員	-		-		-		×	東郷湖という観光地があるものの、美術館との相乗効果が発揮できる有力な施設が近隣に見当たらない。湖畔のスポーツ・レクリエーション機能は美術館という施設との親和性が必ずしも高くないことから、地域づくりへの寄与は限定的と考えられる。	-		-		
前田委員	×	交通アクセスが良くない。バスは1時間に1本で、バス停から200m。	×		×	東郷湖と温泉を中心としたリゾート地との連携の思いは伝わるが、連携しやすい立地とは言いがたいのではないかと。	×	ハワイ・東郷温泉の連携だけでは弱い。	-		-		
里見委員	×	・最寄りのJR駅が倉吉駅で、距離が7km ・倉吉駅からは路線バスがあるが、1時間に1本程度。 ・県東部、県西部、岡山県からの車のアクセスは比較的良好	△	東郷湖周辺の温泉宿泊施設や公園があり、可能性はある。	×	・あまりない	△	東郷湖周辺の温泉宿泊施設や公園があり、可能性はある。	×	・既存建物があるが、建物周辺の地盤沈下がみられる。 ・海岸線に近く、美術品の展示、収蔵や屋外展示物に塩害対策が必要である。	×	・一部急傾斜地域がある。 ・地盤の液状化を調査検討する必要があると考えられる	
牧野委員	×	鉄道駅から遠い。バス便は良好とは言えない。	△	町内に羽合温泉、東郷温泉があるが、美術館への誘客数増大への貢献度が高いとは言えない。他の諸施設は他の候補地と比べて特筆する価値無し。	△	町内に羽合温泉、東郷温泉があるが、美術館への誘客数増大への貢献度が高いとは言えない。他の諸施設は他の候補地と比べて連携の可能性が低い。	×	美術館が新規立地することによる地域の変化、住民のための新しい地域づくりが想定できない。東郷池周辺の歴史的遺産(古墳等)を整備する強い意志がある場合は、その連携性は期待できる。	△	問題なし	-		
香川委員	△	車でのアクセスになる。9号線、山陰道インターから近い。近隣にバス停(倉吉から)があるが、現状では1時間に1本程度。	△	はわいの温泉との連携。東郷池の景勝。	△	はわいの温泉との連携。夢ひろばなど周辺施設との連携。	△	野球場、体育館は合併後の町全体で見直しをしており、代替設備はある。	△	広さは十分。軟弱地盤対策に経費を要する可能性有り。	×	周辺での地盤震動卓越周期は1.5秒ほどで、軟弱層が非常に厚いと思われる。裏山が急傾斜危険地域。	東郷池水系の浸水、津波対策が平成33年には完了予定。
前野委員	×	倉吉駅から1時間に1本のバス。	△	はわい温泉	△	はわい風土記館、羽合歴史民俗資料館、図書館などがあるが利用人数が少ない	△		×	町有地19076㎡。土砂災害警戒区域に指定されているため防災面の追加の経費が必要	×	浸水想定0-0.5m。背後地に急斜面が存在し、予定地域が土砂災害警戒区域に指定されている	



	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携しやすい場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所				
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携しやすい立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。			
宇山委員	×	美術館来館者のうち、日本交通の松崎・北方線(倉吉駅～長和田 上り、下り)を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日4本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり、1時間08分～3時間30分程度となり利用しづらい。 近接のバス停長和田まで徒歩10分かかる。	△	物販・娯楽施設・商業施設は町内幹線道路沿いにあるが、どこでもあるような日常景色であり集客は期待できない。 観光施設については移動の多くは車であるが、一定の誘導は可能(風光明媚な地)	-	-	-	-	
船越委員	×	バスによるアクセスは9.0分に1本程度であり、便利・容易とは言えない。バス停から離れているがこれは停留所を新設すれば解消するので問題とはならない。バスの本数が少なすぎるのが問題である。増便という考え方もあるが、路線バスの維持は、その採算性から簡単ではない。	-	-	-	-	-	-	
佐分利委員	×	JR 松崎駅から2.6km、倉吉からのバス1.5時間に1本と公共交通の便が悪い。しかも、バス停からは10分かかる。誰でも来やすい場所とは言いがたい。	○	眺望が良く、羽合温泉と燕趙園の両方が見え、観光客に親しみを持ってもらえそうである。	△	○	めぐみの湯公園、東郷湖の眺望で、芸術的な一帯としての地域づくりができる。	△	民有地であり、高齢者施設と隣接するなど、施設整備へクリアする課題が多い。
川井委員	×	湯梨浜町内の他の候補地に比べ、最寄りのJR松崎駅にもっとも近いことは評価できる。しかし、自動車以外での来訪の手段がなく、交通アクセスが便利であるとは言いがたい。	×	付近に見るべき施設がなく、誘導が可能とは言いがたい。	×	×	地域づくりに貢献できる要素が乏しい。	△	敷地が広い。
中島委員	△	JR倉吉駅・松崎駅から近い。また9号線やインターチェンジからも近い。東部・西部からも車で1時間そこそこで。	○	はわい温泉・東郷温泉が近くにあり、中国庭園(燕趙園)もあり、グランドゴルフ(潮月の丘)に近い。海水浴場に近い。	○	△	町中でないので、少し問題があるかも。	○	16,000㎡であり、面積は大丈夫である。
野田委員	×	交通アクセス悪い	△	小規模温泉地	×	×	不利	△	
谷本委員	-		-		-	×	東郷湖という観光地があり、眺望も良好であるが、美術館との相乗効果が発揮できる有力な施設が近隣に見当たらないことから、地域づくりへの寄与は限定的と考えられる。	-	
前田委員	×	交通アクセスが良くない。	×	東郷湖を望める景観のよい所であるが、観光客を誘導するには限定的。	×	×	温泉と東郷湖を中心とした観光地であるが、美術館との直接的な結びつきは弱いように思える立地である。	-	
里見委員	×	・最寄りのJR駅が松崎駅で、距離が2.6km ・倉吉駅からは路線バスがあるが、1.5時間に1本程度、バス停からの距離がある。	△	・東郷湖周辺の温泉宿泊施設や公園があり、可能性はある。	×	×	・あまりない	×	・地権者7人の民有地であるため、用地買収が可能かどうかの見極めが必要である
牧野委員	×	鉄道駅から遠い。 バス便は良好とは言えない。	×	町内に羽合温泉、東郷温泉があるが、美術館への誘客数増大への貢献度が高いとは言えない。中国庭園の外には、徒歩圏内に特筆する施設無。	△	×	町内に羽合温泉、東郷温泉があるが、美術館への誘客数増大への貢献度が高いとは言えない。中国庭園の外には、徒歩圏内に特筆する施設無。	△	問題なし
香川委員	△	車でのアクセスになる。9号線、山陰道インターからやや近い。 近隣にバス停(倉吉、松崎から)があるが、現状では1時間に1本程度。	○	東郷、はわいの温泉、燕趙園との連携。 東郷池の景勝。	△	△	温泉、燕趙園、北山古墳との連携。 東郷池ウォーキング。	○	広さは十分。 民地だが理解を得ている。
前野委員	×	倉吉駅から1時間に1本のバス。	△	はわい温泉	△	△	鳥取版CCRC (Continuing Care Retirement Community) 構想との連携。	△	民有地16680㎡で地権者が7人。 地権者には確約済み

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。

	1. 様々な人が気楽に訪れることのできる場所		2. 地域づくり・まちづくりと連携しやすい場所		3. 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所							
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携しやすい立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。						
宇山委員	×	美術館来館者のうち、日本交通の橋津線、(倉吉駅～臨海公園前 上り、下り)を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日3～4本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり1時間10分～3時間23分程度となり利用しづらい。バス停下車徒歩すぐOK、駐車場確保OK	△	物販・娯楽施設・商業施設は町内幹線道路沿いにあるが、どこでもあるような日常景色であり集客は期待できない。観光施設については移動の多くは車であるが、一定の誘導は可能(風光明媚)	-	-	-	-				
船越委員	×	バスが概ね1時間1本と少ないので公共交通でのアクセスは便利とは言えない。観光バス・自家用車でのアクセスは、山陰自動車道はわいICから3Kmで便利・容易である。但、やはり自前の駐車場が必要である。	-	-	-	-	-	-				
佐分利委員	△	バスは1時間に1本、すぐ近くにバス停はある。幹線は整備されている。	×	幹線道路沿いに店舗等一切無く、ここに来てしまったら、他に行くところはない。羽合温泉中心部にも2kmと歩くには遠い。	△	臨海公園との連携はどのように考えられるか疑問がある。	×	市、県、民有地を合わせて提示され、また、標高の差もあり、特に、ユニバーサルな施設及び施設周辺の整備に不安がある。				
川井委員	×	湯梨浜町内の他の候補地と比べ、バス停が近いという点は評価できる。しかし、便数が1時間に1本と少ない。自動車での来訪以外に手段がなく、交通アクセスが便利・容易とは言いがたい。	×	付近に見るべき施設がない。	×	付近に見るべき施設がない。	×	地域づくり貢献できる要素が乏しい。	△	敷地面積が広い。		
中島委員	△	東部・西部から車で1時間ほどで来ます。9号線やインターチェンジに近く、また倉吉駅に近い。バスは1時間1本ほどなので。	○	東郷湖羽合臨海公園があり、またはわい温泉・東郷温泉に近い。中国庭園燕趙園もあり。	○	ハワイアロハホール・ハワイ風土記館・ひかり園に近い。鳥取短期大学・鳥取看護大学に近い。	△	少し商店街からは離れている。	○	面積は12,000㎡であり、また東郷湖羽合臨海公園に面している。		
野田委員	×	交通アクセス悪い	×	特になし	×	不利	△		△			
谷本委員	-		-		-		×	東郷湖という観光地があるが、美術館との相乗効果が発揮できる有力な施設が近隣に見当たらないことから、地域づくりへの寄与は限定的と考えられる。また、近隣に住宅があり、生活への影響も懸念される。	-			
前田委員	×	交通アクセスが良くない。車のみ。	×		×	文化施設とのつながりが見当たらない。	×	ハワイ・東郷温泉があるが、連携は限定的である。	-			
里見委員	×	・最寄りのJR駅が倉吉駅で、距離が7km ・倉吉駅からは路線バスがあるが、1時間に1本程度。 ・県東部、県西部、岡山県からの車のアクセスは比較的よい。	△	・東郷湖周辺の温泉宿泊施設や公園があり、可能性はある。	×	・あまりない	△	・東郷湖周辺の温泉宿泊施設や公園があり、可能性はある。	×	・平坦で、敷地面積が広いが道路で区画された3つの敷地であり、建物計画の自由度が束縛される可能性がある。 ・海岸線に近く、美術品の展示、収蔵や屋外展示物に塩害対策が必要である。 ・東郷湖周囲は地盤沈下の可能性がある	△	・地盤の液状化を調査検討する必要があると考えられる。
牧野委員	×	鉄道駅から遠い。バス便は良好とは言えない。	×	町内に羽合温泉、東郷温泉があるが、美術館への誘客数増大への貢献度が高いとは言えない。徒歩圏内に特筆する施設無。	△	町内に羽合温泉、東郷温泉があるが、美術館への誘客数増大への貢献度が高いとは言えない。徒歩圏内に特筆する施設無。	×	美術館が新設されることによる地域の活性化、他施設の新規立地、住民のための新しい地域づくりが想定できない。	△	問題なし		
香川委員	△	車でのアクセスになる。9号線、山陰道インターから近い。近隣にバス停(倉吉から)があるが、現状では1時間に1本程度。	△	はわいの温泉との連携。東郷池の景勝。	△	はわいの温泉との連携。東郷池ウォーキング。	△	鳥取版CCRC (Continuing Care Retirement Community) 構想との連携。	△	広さは十分。一部民地だが理解は得ている。水路、道路の関係で、3分割利用か。路線の付け替えが必要。	△	周辺での地盤震動卓越周期は1.4秒ほどで、軟弱層が非常に厚いと思われる。東郷池水系の浸水、津波対策が平成33年には完了予定。
前野委員	×	倉吉駅から1時間に1本のバス。バス停から近い。	△	はわい温泉	△	はわい風土記館、羽合歴史民俗資料館、図書館などがあるが利用人数が少ない	△		△	県有地、町有地、民有地が混在。地権者には確認済み。12473㎡	△	浸水想定0-1.0m

郊外での立地で1万2千㎡余りでは駐車場用地を確保すると、本体分の用地が狭小になってしまうのでは。

できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。



	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所						
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の観光施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携し易い立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。					
宇山委員	△	美術館来館者のうち、日ノ丸自動車の赤松線、(倉吉駅～北栄町役場大栄町前 上り、下り)及び日本交通の北条線(倉吉駅～北栄町役場大栄町前 上り、下り)を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日10本程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたり平均4.3分程度。しかし、JR由良駅から徒歩8分程度であり、JRを利用すれば上下2.0分程度の間隔になる。	△	観光施設として集客力のある「道の駅大栄」、「青山剛昌ふるさと館」がある。	-	-	-	-			
船越委員	△	主要駅たる倉吉駅から約1.0Kmありやや遠い。由良駅を起点としたバス路線がなく、倉吉駅からの便となる。最寄りのバス停に平日は2.3便、土日祝日は1.8便とやや少ない。駐車場は敷地面積からすれば十分確保できる。	×	近隣の観光施設は青山剛昌ふるさと館であるが、観光客の年齢層等に偏りがあると思われる。誘導可能かと問われれば、不可能とは言えない程度か。	-	-	○	敷地面積が広いので十分可能。	人口集積地ではなく、郊外型に属すると思われる事が集客面で懸念か。		
佐分利委員	△	JR 駅から 650m、バス停は 300m位と近く、歩道も広く整備されていた。しかし、旧国道を横断しなくてはならないこと、コナン通りに曲がるあたりの歩道の整備が不十分で、車椅子、高齢者、視覚障害者などは通りにくい。国道9号線からの車のアクセスは良い。	△	青山剛昌ふるさと館と結ぶコナン通りがあるが、コナン通りには他に何も無いという感じである。店舗がなくとも、道を魅力のある方向で整備できないと、観光という面では相乗効果にはならない。川の風景はとても風情があるので、そちらを活かすことも考えられる。	×	×	○	土地は広く、ユニバーサルな施設の整備も可能である。			
川井委員	○	由良駅から徒歩圏内にある。国道9号線から南に約8.00mのところあり、今後ICも設置される予定。	○	年間利用者1.0万人を超える青山剛昌ふるさと館と由良駅の間には候補地があり、徒歩での来訪が可能。	△	△	○	所有者、現況、敷地面積においては、問題がないものと考えられる。			
中島委員	○	倉吉駅からは少し遠いが、定期バスの回数が多い。また9号線に近く、東部・西部からも1時間ほどで着く。由良駅から近い。	○	青山剛昌ふるさと館。道の駅大栄。	△	○	○	敷地内に年内には集合店舗を建設予定。面積も25,000㎡あり			
野田委員	×	交通アクセス悪い	×	青山剛昌ふるさと館の来場者と美術館の来場者は関連が薄い	△	×	○	美術館による地域再生は困難と思われる。			
谷本委員	-		-		-	△	-	多くの芸術家を輩出している地域であり、また、青山剛昌ふるさと館などの観光地がある。しかし、青山剛昌ふるさと館と美術館では客層が異なると考えられ、地域づくりにおける相乗効果が十分に発揮できない恐れがある。			
前田委員	×	県内外の観光客にとって行きやすい場所とは言えない。	×		△	×	-	前田寛治、生田和幸の出身の地として美術館は直接的に結びつくものではない。			
里見委員	△	・JRコナン駅には近いが、特急停車駅ではない。 ・倉吉駅からは路線バスがあるが本数が少ない。 ・県東部、県西部、岡山県からの車のアクセスは比較的整備されている。	△	・名探偵コナン作家の青山剛昌ふるさと館が700m北にあり連携が可能である。	△	△	△	・周辺には建物がないが、コナン通りの取り組みの沿道に位置し、連携が可能である。	・平坦で、敷地面積が広く、建物計画に支障はない。 ・海岸線に近く、美術品の展示、収蔵や屋外展示物に塩害対策が必要である	・地盤の液状化を調査検討する必要があると考えられる。	
牧野委員	△	鉄道駅の徒歩圏内であるが、特急は停車しない。県中部に位置するものの、海外を意識する時、米子空港、境港からのアクセスに難がある。バス便は良好とは言えない。	△	近年来客数が増加しつつあるコナン館に近接し、町を挙げて、新規の商業施設立地も含めて地域計画を策定中。ただし、相互に好影響を与えるべき他の施設に乏しい。	△	○△	△	小規模と思われるが、商業施設の新規立地、地域住民の街づくりへの参加意欲が進展すると期待される。	問題なし		
香川委員	○	9号線より近い。山陰道の(将来的な)インターからも近い。周辺を含めて駐車場あり。JR由良駅から徒歩圏だが、列車本数は多くない。レンタサイクル利用可。境港航路(大型客船)からのバスも見込める。	△	青山剛昌ふるさと館には10万人/年(外国人10%、県外者85%)と外からの観光客が多い。美術館との客層は同じか?	△	○	○	会場跡、道の駅、物産館(予定)などと連携した総合発展は可能。旧免許試験場として、県内全域から人が集まっていた場所。大山、海岸など景色は良い。	広さは十分。無償提供可能。	海、川に近いが、津波、浸水は影響が小さいと思われる。元は丘だった微高地。周辺地盤の震動卓越周期は0.5秒程度であり、軟弱層は比較的薄いと思われる。	できればジャストポイント、可能な限り近傍におけるボーリング情報により、地下構造を把握しておくこと。
前野委員	△	JR由良駅から徒歩可。ただし、泊まる電車の数が少ない。倉吉駅からはバスがあるが便数が少ない。	△	青山剛昌ふるさと館との距離が650mと近い。コナン通りに年間10万人が訪問し海外からも訪問客が多いが、美術館に全員が立ち寄るかどうか不透明。今後、北条商工会の集合店舗が出来るので若干の集客力の増加が見込まれる。	△	○	○	北条町図書館は0.5kmと近いが、民族資料館が6.2kmとやや離れている。	町有地25383㎡2。	由良川の堤防天端より高い地盤であるため水防問題は少ないと考えられる。	

資料2 鳥取県立美術館候補地評価表

候補地：伯耆町すこやか村（伯耆町立植田正治写真美術館隣）

	1 様々な人が気軽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携しやすい場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所							
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携しやすい立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。						
宇山委員	×	定期路線バスはなし。マイカー90%。植田正治写真美術館前からのデマンドバスが溝口駅、岸本駅方面に出ているが1日4本がでていて、1時間前予約制なので利用しづらい。	×	植田正治写真美術館は冬季(12月～2月)は休館になるので誘導はむずかしい。大山ガーデンプレイスほか物産販売、食事処があるが距離があり車がないと移動は難しい。	-	-	-	-	ロケーションは素晴らしい。この地が結果次第で防災拠点になる予定			
船越委員	×	最寄りの駅はJR岸本駅となるが、特急停車駅ではないしバスの便も非常に少ない。従って米子駅が最寄り駅となるが、約1.1kmの距離がある。いかんせんバスの便が極端に少ないので、公共交通のアクセスが便利・容易とは言い難い。	×	近隣には隣接する植田正治写真美術館以外に集客施設がなく、他施設の訪問客の誘導は困難。	-	-	-	-				
佐分利委員	×	基本的に自家用車や観光バスでのアクセスになる。これまでのような、土日祝日のループバスではなく、常に乗り合いバスが通るとなると良いが、JR米子駅、JR岸本駅からの連絡、かかる時間が課題で有り、県民が、また誰でもが日常的に訪れる場所としては無理がある。	△	隣接の植田正治写真美術館との共存になるが、双方の個性を活かせるかが問題である。ここからの大山の眺望そのものが観光資源であり、この風景は多くの人に見てもらいたいものである。大山地区の他の施設への観光と県立美術館は結びつきにくい。	△	植田正治美術館があまりにも近すぎて、県立美術館ができる、その別館のようになるのではないかと感じる。あるいは逆に、植田正治美術館への認識が高まるかも知れない。	×	地域づくりとは分離すると思われる。	△	土地は広いが、段差が有り、風景を活かした施設ができるのか疑問がある。土地整備にも苦心が必要のように思う。上記の問題が解決すれば、ユニバーサルな施設整備は、可能だと思える。美しい風景を活かしたもので、誰でもが使いやすい施設が整備できれば、様々な人が豊かな気持ちになれる。		
川井委員	×	JRの駅から約8.2kmありタクシーで7分。付近にバス停があるものの便数が少ない。大山の麓であり、市街地から訪れるには自動車ですら30分程度かかる。	×	景色はよく、自然が豊かではある。隣接する植田正治美術館以外に目立った観光施設がなく、多くの訪問客の誘導は困難。	×	周囲に施設等がないため、文化施設や教育機関との連携は考えにくい立地。	△	鳥根県立美術館、花回廊との連携も模索されるが、大山の麓という立地からすると、この点を他の候補地と比較して、優れているとは評価できない。	△	※記載なし		
中島委員	×	米子駅から遠すぎる。又定期バスもほとんどない。	○	植田正治美術館の隣で、また大山やとっとり花回廊に近い。	△	周辺に何もないので。	×	面積は19,000㎡であり、大山が見えて。	○			
野田委員	×	交通アクセス最悪(路線バスなし)	×	植田正治美術館の集客力は弱い	×	植田正治美術館のみ	×	周囲は畑	△			
谷本委員	-		-		-		△	眺望がよく、また、植田正治写真美術館との連携が可能であるが、周辺施設までの距離が長く、自家用車を利用した観光客のみが顧客になる可能性が高く、地域全体に関する相乗効果は限定的である恐れがある。	-			
前田委員	×	交通アクセスが良くない。	×	大山が美しく眺望できるが、年間50%の確率である。飲食店がない。	×	植田正治美術館が隣接するものの、年平均2万人の入館者であり、連携しても難しい立地である。	×	大山を中心としたリゾート地であるが、近隣に飲食店も少なく、文化施設も植田正治美術館が年間2万人の入館者と聞いてはいるが、それだけではいくら景観が良くても、地域住民への貢献はできていない。県立美術館の立地には難しいと思う。	-			
里見委員	×	・JR、路線バスの交通の利便性に距離、運行間隔など問題がある。 ・車で利便性は、米子道のインターから近い。	△	候補地は大山への眺望がよく、周辺観光施設は集客力はある。	△	植田正治写真美術館に隣接し、協働での取り組みの可能性はあるが、冬季の集客力が問題である。	×	・農地のなかにあり、周辺は定住者の集積が少なく、広域での視点での視点が必要となる。	△	・敷地面積はあるが、植田正治写真美術館建設時の現存する大山を眺望するスポットを確保するため建物高さに制限がある。 ・敷地内に高低差があり、バリアフリーの対応が必要である。 ・既存施設があり、撤去が前提となる。 ・広域下水道未整備地域であり、合併処理施設が必要となる。	○	・特に問題はない。
牧野委員	×	駅から遠い。バス便は良好とはいえない。	×	植田正治美術館に隣接している外は、特筆する施設無。著名な大山観光区域であるが、来客数増加に結び付くかは不明。	△	植田正治美術館に隣接している外は、特筆する施設無。著名な大山観光区域であるが、来客数増加に結び付くかは不明。	×	美術館新設による新たな投資、地域づくり運動の展開が予測できない。	△	特に問題無。		
香川委員	△	車(インターは近い)では可だが、公共交通機関での移動が困難。	×	車では可だが、公共交通機関での相互移動が困難。	△	植田正治写真美術館との連携は可能。同美術館の外観とマッチしたデザインには経費が必要かと思われる。	△	観光客の誘致が目的か、県民啓蒙のための美術館なのか整理が必要。	○	広さは良い。高低差(段差)への対応(バリアフリーなど)が必要か。大規模な土地改変や基礎設置には、地中の火山弾、溶岩など巨匠への懸念がある。	○	台地上の開削地であり、河川災害、土砂災害の危険は小さいと思われる。地盤卓越周期(周辺観測では0.9秒程度)の確認が望ましい。
前野委員	×	バスの定期路線がない。米子駅から距離がある。	△	隣に写真美術館がある。大山地区のホテルや別荘地などがあるが親子連れなどはどちらかというとフィールドアスレチックや乗馬体験などに行くことが予測されるため、十分な訪問客を見込めない可能性がある。	×	隣に写真美術館がある。雪のため冬季休館するため一年を通じての利用が見込めない。周辺施設が離れており連携しにくいと考えられる。	△	他の関連施設と離れており十分ではないが地域作りにはある程度貢献できると考えられる。	○	町有地19298㎡	○	防災面は問題は少ないと考えられる。

ロケーションは素晴らしい。この地が結果次第で防災拠点になる予定

帝京すこやか村の建物、植田正治写真美術館の建築確認ボーリングなど情報の確認が望ましい。



	1 様々な人が気楽に訪れることのできる場所		2 地域づくり・まちづくりと連携しやすい場所		3 必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所							
	(1) 交通アクセスが便利・容易であること。	(2) 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。	(1) 他の文化施設や教育機関と連携しやすい立地であること。	(2) 地域づくりにより貢献できる立地であること。	(1) 必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	(2) 防災上安全な土地であること。						
宇山委員	×	美術館来館者のうち、日ノ丸自動車の吉岡線（鳥取駅～倉見上り、下り）を利用する場合、利用時間帯は上り下りそれぞれ1日10分程度と予想されるが、この間の運行間隔は1本あたりそれぞれ平均43分程度になる。しかし、美術館入口まで約900mあると資料に記載されている。	—	—	—	×	丘陵地であり、平地確保のため大規模な造成工事が必要となるなどコスト増になる。	—				
船越委員	×	周辺道路は進入路として十分なものがなく、当該地域は山間地の廃村跡のごとくで道路が草に覆われており、車の乗り入れどころか、徒歩で近づく事すら困難。従って評価のしようがない。	—	—	—	—	—	—				
佐分利委員	△	山陰道のインターから近く、飛行場からも近い。JR駅からは遠い。高台にあり、巡回バスが上まで来れば便利である。	△	湖山池や出会いの森等の自然、布施運動公園があるが、美術館との関連があるか疑問である。	△	鳥取大学と近く、連携しやすい。	△	鳥取市の文化的地域が、西に広がる。湖山池周辺の活性化につながる。	△	敷地は広いようである。アクセスの問題がクリアできれば、ユニバーサルな施設も建設可能であるし、広大な風景も、多くの人に楽しんでもらえる。	—	
川井委員	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
中島委員	×	—	×	×	×	×	×	×	×	×		
野田委員	×	交通アクセス悪い	×	鳥取大学からも離れている	×	湖山池は観光地化していない	×	—	△	—		
谷本委員	—	—	—	—	×	美術館との相乗効果が発揮できる有力な施設が近隣に見当たらない。周囲と隔絶した空間であるため、地域づくりへの寄与は限定的である。	—	—	—	—		
前田委員	×	交通アクセスが悪い。道路を作り直すにも大きな経費がかかる。20万人達成は不可能と考える。	×	集客施設等から遠く、20万人達成は不可能と考える。	×	関連施設はなく、相乗効果が期待できない。	×	場所的にまちづくりにつながらない。	—	—		
里見委員	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
牧野委員	×	JR駅から徒歩圏内ではない。バス便も良好とは言えない。身体的弱者が歩行困難な道程。	×	郊外型立地であり、他の集客施設との連携は期待薄。想定されるアクセス途中において、子供の遠足、自然そのものを求めるイベント、学術研究者等を除くと、当該地に至るまでのワクワク感が生じない。	×	郊外型立地であり、他の集客施設との連携は期待薄。想定されるアクセス途中において、子供の遠足、自然そのものを求めるイベント、学術研究者等を除くと、当該地に至るまでのワクワク感が生じない。	×	美術館新設に誘発される新規立地が期待される施設が思い浮かばない。新たに投資して地域づくりを推進する必然性が感じられない。	×	機能性維持のための施設整備の具体論については門外漢である。切り土、盛土工事の費用が増大する。	—	
香川委員	×	公共交通機関でアクセス出来ず、車での移動が前提となる。	×	他の文教施設から遠い。	×	鳥取大学との連携が考えられるが、やや離れている。孤立した施設になる懸念がある。	×	眺望は良い。出会いの森とは客層が異なると思われ、他の文教施設から孤立する懸念あり。	△	広さは良い。基本設計までおこなった成果が残っている。旧施設があった場所だが、大規模な造成が必要。	○	地盤は堅固と思われるが、調査が必要。河川災害、土砂災害の危険は小さいと思われる。
前野委員	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

想定外です。無理だと思います。